

『We Can!』を使ったクラスルーム・イングリッシュ

「小学校教員向け 指導力・英語力向上セミナー」

主催：株式会社イーオン 学校教育課

日時：2018年8月18日(土) 場所：都久志会館(福岡市)

英会話教室を運営する株式会社イーオンは、全国各地で小学校教員を対象としたセミナーを開催しています。講師を務めるのは、小誌連載「今日から使える! Classroom English」の執筆を担当している菅井幸子先生。今年8月18日に福岡市で開かれた『We Can!』を活用したクラスルーム・イングリッシュのセミナー取材しました。



セミナーで講師を務めた菅井幸子先生。

クラスルーム・イングリッシュと英会話は別なもの

「皆さん、クラスルーム・イングリッシュって難しいと思いますか?」。冒頭、菅井先生は会場に集まったさまざまな年代の先生方に問いかけた。うんうんとうなずく参加者たち。「クラスルーム・イングリッシュとは、授業を円滑に進めるために調整した英語。英会話とは別ものなんです」と菅井先生。つまり、ポイントさえ押さえれば、英語初心者でも使いこなせるということ。「3〜5語程度の英文にまとめると、子どもにとっても、先生にとっても覚えやすいでしょう」と補足すると、参加者たちは熱心にメモを取っていた。

「行動の整理」から始めよう

『We Can!』を使った実践練習に入る前に、菅井先生が、授業でスムーズに活動を進める方法を提案した。それは、指示英語ありきではなく、まず子どもたちにどんな活動をさせたいのかを整理するというやり方。「リスニングやスピーキングなど多様な活動がありますが、この活動は何のためにあるのかということをご自身自身が理解しておけば、指示英語は後からついてき



※1 『We Can!』Unit 7の冒頭(p50-51)

ます。ねらいを明確にして準備すると、指示英語ありきではなくなるのです」と力を込めます。

最初に行うのは子どもの活動内容の確認。『We Can!』指導編の単元目標や言語材料、活動のねらい、内容、指導上の留意点などを授業前にチェックしておく。菅井先生は「デジタル音声を聞く場合、授業で子どもと一緒にいきなり聞くのではなく、事前に聞いておきましょう。そのほうが皆さん自身も安心できます。指導編には音声ページへアクセスできるQRコードもついているので活用しましょう」と説明した。

続いて、次の四つの手順に沿って、活動に必要な先生の行動を整理していく。

- ① **セットアップ**(活動に必要な準備)
- ② **チェック**(活動に必要な情報の確認)
- ③ **タスク**(活動内容の説明やデモンストレーション)
- ④ **フォローアップ・コメント**(活動後の答え合わせや意見のシェア・褒めるなどの声かけ)

この手順を徹底することで、先生も子どもも授業の流れに慣れることができるのだ。

四つの手順に沿ったクラスルーム・イングリッシュを

実践練習で扱ったのは、『We Can! ①』のUnit 7冒頭の見開きページ(※1)。デジタル教材を視聴しながら、紙面上にあるさまざまなものを指で押さえていく活動を行う。ここで菅井先生は、このUnitをスムーズに進めていくためのコツを伝えた。「ここに出てくるものは、これまでに子どもたちが聞いたり、言ったりしてきた身近なものですが、言い方を忘れていることもあります。デジタル教材を視聴する前に絵カードや見開きページを拡大したものを見せ、覚えているかどうかをチェックしましょう。そうすればクラス全員が安心してこれからの活動に

入ることができます」。

その後、参加者たちは2,3人のグループを作り、①〜④の流れに沿ってこの活動に必要な先生の行動を話し合った。その行動内容を日本語でワークシートに書き出していき、それをクラスルーム・イングリッシュとして英語に直していく。菅井先生が「このパートでは何ページを開かせるとか、単語チェックのときにどんな質問ができるかとか、先生が授業でどんな行動をとるか具体的にイメージしましょう。行動内容を意識すると、クラスルーム・イングリッシュは後からついてきます」と話した。

次はペアワーク。先生役と子ども役に分かれ、書き出したクラスルーム・イングリッシュを声に出していく。先生役はプリントを指さしたり、拍手したりと、ジェスチャーを交えて話していた。「子ども役の方は、授業で実際に子どもたちが言いそうなことを考えて質問してみましょう」と菅井先生。先生自身の行動を整理し、子どもたちの反応を前もって予測しておくことで、よりスムーズに授業を進められるのだ。



参加者の声

これまでは限られたクラスルーム・イングリッシュばかり使っていましたが、今日のセミナーで言葉の引き出しが増えてよかったです。(40代・女性教諭)

いきなり全て英語で授業を行うのは難しいかもしれませんが、少しずつなら英語のやり取りを増やしていけると思いました。(40代・男性教諭)



参加者どうしの会話練習にアドバイスをする菅井先生。セミナーは終始、和やかな雰囲気が進められた。